

「ふるさと教育」第二弾 石灰鉱山とセメント工場見学

ふるさとの産業を知る



市内小学校6年生を対象に、ふるさと津久見に愛着を持ち、ふるさとを大切にする人になってもらいたい趣旨で「ふるさと教育」が行われております。

今回は、前回の扇子踊りに続く第二弾として、世界に誇る津久見市の基幹産業、セメント製造業について学びました。

太平洋セメント株式会社大分工場さんのご協力を得て、石灰鉱山とセメント工場を見学させていただきました。

工場では、木くずや古タイヤ、熊本地震で発生した震災ゴミを処理してセメントを製造する際の燃料にするなど、環境保全にも大きく役立っていることを学びました。

見学の後は、子ども達の質問にも懇切丁寧に答えてくれました。

「ふるさと教育」第三弾は、津久見市の春を代表する観光スポットとなった、四浦半島の河津桜の植樹体験を予定しています。

副読本「津久見の石灰石とわたしたちの暮らし」製作

大人の方にも分かりやすく興味深い内容となっています。



関心のある方はお問い合わせください。
問い合わせ先：生涯学習課
0972-82-9528



フレスコ画の花束

津久見高校、第一中学校、第二中学校の美術部生徒が、7月に作成したフレスコ画で描いた花束を、市内7つの高齢者介護施設に届けてきました。



日本屈指の産出量を誇る、津久見の鉱山や石灰石について、詳しく紹介されている副読本「津久見の石灰石とわたしたちの暮らし」を、市と地元企業が一体となって製作しました。

今回製作された副読本は、「産業面から見る石灰石」だけでなく「地質面から見る石灰石」についてもまとめられていることが魅力のひとつで、この副読本を通して地域のことを学びながら、ふるさと津久見の魅力に改めて気づいてほしいと願いを込め製作されています。

この副読本は、3学期に市内小学校高学年と中学生に配布されます。

また、協力していただいた企業側でも、工場見学の際に配布するなど活用を考えているそうです。

体格差もなんのその 津久見サッカースポーツ少年団



県大会で上位に食い込み、12月に宮崎市で行われた「全九州少年サッカーフェスティバルin宮崎」に出場しました。チームで背が一番高い選手でも、大会の中では小柄なぐらい、他チームと体格差の開いたチームですが、それでも強いので驚かれています。

大先輩からのメッセージ 第二中学校 職業講話



今回、講師にお招きしたOBの江藤剛治さんは、高速度ビデオカメラの開発に貢献し、テレビ番組「世界一受けたい授業」に2度も出演された有名な方です。講話の最後に「どんな仕事に就こうとも、その仕事に誇りを持って欲しい」とメッセージが贈られました。

3校の力を合わせて 市内中学校 生徒会執行部



市内中学校3校の生徒会が集まり、市内商業施設3店舗の店頭にて募金活動を行いました。今回の募金活動に使われたポスターと募金箱は、一中美術部の生徒が製作したものです。来年度は、チャリティーショー出演を予定しているそうです。

映画館のないまちで 「NPO法人きらり☆つくみ」映画上映会



映画館の無い津久見市で、共通の話題となる映画を鑑賞した後、津久見について語り合う場を提供するために行われており、上映後には併設されたカフェで、多くの方がコーヒーを片手に懇談をしていました。この上映会は今回で12回目となります。

厚生労働大臣表彰 収集ボランティア鈴の会



20年以上、古切手などを収集・換金し、寄附活動を行っている「収集ボランティア鈴の会」が、その功績が認められ厚生労働大臣表彰を受賞しました。また、図書館や学校で読み聞かせ活動を行っている「図書館ボランティアたんぽぽ」も感謝状を受賞しました。

「小さな親切」運動 実行章・作文表彰式



津久見市公民館にて「小さな親切」運動、実行章・作文の表彰式があり、実行章5名、作文表彰10名が表彰されました。県本部優良賞を受賞した、堅徳小学校6年生の嵐俊諒くんによる受賞作文の朗読も行われました。

まぐろ一本お届けします 「ふるさと納税」パンフレット作成



「ふるさと納税」の返礼品を掲載したパンフレットを初めて作成しました。「ふるさと納税」については本紙4ページに詳しく掲載しています。今回作成されたパンフレットは、市役所ホームページでもご覧いただけます。

身近な生活情報をひとまとめ 「暮らしの便利帳」共同発行 調印式



市役所での各種手続きのご案内や、防災、観光、交通、医療など、生活に役立つ情報を一冊にまとめた「津久見市暮らしの便利帳」を作成することになりました。5月に各家庭にお届けする他、転入者に配布する予定となっています。

いち早く安心安全のために 災害応急業務協定 調印式



この協定を結んだことにより、災害発生時、早急に被災状況の調査・確認を行うことが可能となり、インフラの早期復旧に大きく貢献してくれます。また、大規模災害時に県内の事業者が被災した場合でも、他県からの応援要請が可能となります。

※市ホームページ内「取材日誌」、市公式フェイスブックにて、掲載出来なかった写真や記事をご覧いただけます。